

国会で

コンビニ店主の願い・実態

取り上げました 日本共産党

- 「廃棄ロスを押し付けられて本当に困っている。でも本部にはいえない」
- 「本部は多くの商品を仕入れさせるが、加盟店は廃棄した分、利益が減る。不公平だ」
- 「24時間電気をつけ続けているのはムダ」



「廃棄ロスの押し付けやめて」



こくた恵二衆院議員が追及

こくた恵二衆院議員は、予算委員会（2月26日）でフランチャイズ契約のコンビニエンス本部と加盟店の不公平な関係についてただし、本部と加盟店が真の意味で共存共栄できる公正なルールを求めました。

とくに、ひとつのコンビニ店舗から年間の食品廃棄が4758キロにもなる試算を示し、その背景として、本部だけがもうかって加盟店に廃棄ロスを押し付ける「コンビニ会計」の仕組みがあることを指摘しました。そしてコンビニ店主に、独立した事業者として自由な裁量を広く認めるべきだと主張しました。

政府

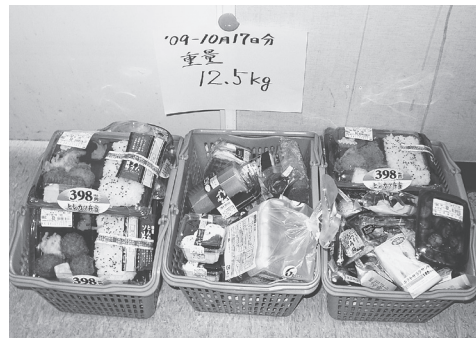
「(指摘どおりなら) きちんと是正さす」

経済産業大臣は「(こくた議員が指摘した)『コンビニ会計が大量の食品廃棄の要因』ということについて因果関係があるのなら、きちんと是正させる」と答弁しました。

「よくぞ言ってくれた」

質問には共感の声がたくさん寄せられました。

- 的を射た内容。声をあげられないオーナーの声を代弁した質問に驚き、感動すら覚えました
- ご質問はコンビニ加盟店の実態と実情を正確に把握された内容で、「拾う神か」と感動しました
- 素人を陥れる契約書で縛り上げる。「契約だから何でもありか?」。よくぞ突っ込んで言ってくれました



「コンビニ」の食品廃棄の実態

不当な「コンビニ会計」改め共存共栄でできるルールを